

No.265
1985年7月 第1号発行

2007 July

平成19年

7月 波紋

PUBUSHER: 森松株式会社
EDITOR: 小坂美香



6月15日～17日まで、北海道班とオーストラリアのケアンズ班(19日まで)の2班に分かれて、森松(株)50周年慰安旅行に行ってきました。

<北海道コース>

北海道のコースは新千歳空港経由の層雲峡～旭川(旭山動物園)～美瑛・富良野～小樽観光～札幌市(モエレ沼公園)の2泊3日の旅(幹事の森 ちかさん・森 奈津子さんお疲れ様でした)

15日に新千歳空港に到着後、札幌「サッポロビール園」で北海道名物のジンギスカンを食べました。思ったより、肉が柔らかくて、臭みが無く、とても美味しく頂きました。その後、札幌郊外を通り、層雲峡方面へと向かう途中、高原の激しい雨に遭遇し、あっという間に周りの風景が見えなくなり、白い水の世界になってしまいましたが、この雨のおかげで、山が一層美しく、鮮やかな緑を觀賞し楽しむことが出来ました。約3時間の移動で、層雲峡に着いたとき、雨が上がり、霧みtainな雲が山の中腹に漂っています。流星の滝と銀河の滝が見るからに舞い上がっている二匹の龍みたいに山と雲の間から飛び込んできて、俗世間を離れた別天地でした。マイナスイオンにて気分もリフレッシュです。

今回の旅行で一番印象に残ったのは、有名な旭山動物園の旅でした。北極熊や猿やペンギンなど、様々な動物をみることができました。可愛かったのは、北極熊でした。全身真っ白で、毛がフワフワで、ぬいぐるみみたいでした。その日は天気がちよっと暑かったせいなのか…北極熊はあまり活発的に動かなく、ずっと岩の上で横になっていました。夏バテかな…それでも、周りは人だらけで、嫌で機嫌があまりよくなかったかな…まあ…北極熊の立場になれば、毎日、あんなに大勢の人に見られて、やはり嫌ですよね。見る人が一目見ようと一生懸命ですが、熊ちゃんの気持ちを考えて、静かに見たほうが熊ちゃんも喜ぶかもしれないですね。

今回の旅はとても楽しむことができました。自然との触れ合いで、ストレスの解消もできました。さらに、自然の大切さを感じ、環境を保護するようにこれから身の回りから注意しようと思いました。

李 慧 (東京オフィス)



<オーストラリア・ケアンズコース>



2日間フリー時間が有り皆さんそれぞれの時間を楽しんだことだと思います。

キュランダ列車にグレートバリアリーフ・動物園でコアラと抱っこ・熱帯雨林スカイレーン(ロープウェイ)・実弾射撃・リーフカジノ・ゴルフその他たくさん遊んできました。その中でも、今回、社長が見事にやってくれました。誰もが飛ぼうとは思わなかった。あの高さも見て…社員全員の前でハンジー・ジャンプを飛んでくれました地上44メートルの高さから、下の池に向かってジャンプ!!

社長のコメントです…迷った時は、やってみよう!とんだ人は運氣があがると思います。

松井宣和 (製造部)



28日(土)	23日(月)	18日(水)	16日(月)	15日(日)	14日(土)	10日(火)	7日(土)	5日(木)	4日(水)	3日(火)	2007年 7月
第四土曜休み	経営会議	CS向上会議	長崎修さん誕生日	海の日(祝日)	第二土曜日休み	足利工場研修会	第一土曜休み	中部日中経済交流会	ISOT(東京ビックサイト) 4～6日(金)まで	黒松康郎さん誕生日 マリン・カーボン会議	の予定
	18時～	16時30分～	15時10分～								



パートさんコーナー 「私と家族」



尹 建平 (製造部)

私は、中国の雲南省から日本に来てはや五年になります。そして、森松産業④に入って二年半経過致しました。その間、日本語と日本の事について色々勉強しました。日本は住みやすい国で、環境もいいし、食べ物も美味しいし、人も礼儀正しく優しいと思います。森松の皆さんも大変親切で色々な事を教えて頂き、そして、職場は楽しく仕事ができる環境なので、私は心から感謝の気持ちでいっぱいです。

私の主人は日本に来て十年になります。初めは日本の先進的な技術・知識を勉強する為に、留学に参りましたが、そのうちに日本の自由・平等・豊かな暮らしと安全かつ民主的な社会環境に惹かれ、結果的に日本での職につきました。現在毎日元気で会社に勤めています。

私の娘は、小学校四年生の時に日本に来て今中学校二年生です。日本での生活は、とても充実しているように感じられます。学校環境と周囲の温かい応援と日々の努力で日本での生活に馴染んでいるようです。日本語も私より良く出来る様になりました。時々私の解からない言葉を教えて

くれる程です。また、以前私の働いている職場に見学を兼ねて数日間お手伝いに来ていました。感想は、仕事は大変だけれど周囲の人が面白くて楽しい所だねと言っていました。また、行ってもいいと聞かれたので、何と返事をして良いのか困りました。けれど、娘が素直に成長してくれてとても嬉しいです。

在日外国人として現実的に良い事や、辛いこともありませんが家族三人で頑張って幸せな暮らしを送って行きたいです。私も色々な知識・常識を身につけて娘に負けないように頑張っていきたいと思います。森松の皆さん、私に日本での風習から日本語まで時間のある時教えて頂けませんでしょうか。宜しくお願い致します。日本が好きです。森松の環境が好きです。そして感謝しています。

「休日」は 映画鑑賞



加藤貴幸 (配送部)

私の趣味は映画鑑賞です。もちろん映画館にも行くのですが毎週行くのもお金は掛かるし、めんどくさいですよ。そんな訳でビデオレンタルは平均すると週3回ほど行きます。私の場合ビデオレンタルに行っても話題作を主に借りる事はあまりないです。とにかく、お店の中を見て周り目に止まったものを借りるようになっています。話題作だけでなく、あまり当たり外れは少ないと思います。ですが一度B級映画にはまると思われませんか!なぜかと言うと良い映画に当たったときの感動は話題作以上にあると思います。

ついでに、ある映画が目が行きました。(サルフェイス スリー)最終段階!と言う映画を見ました。感動ではないのですが観ている間中真剣に見た映画です。内容は人体実験とも言われるべき治療の体験を基に描き話題を呼んだ映画で、現実にあつた抗がん剤事件をベースに、さらに踏み込んだ衝撃作です。バイクシヨップの整備士、福家稔は、アメリカ横断ツーリングの夢を持つ25歳。そんな彼を腺ガンという病魔が襲う。手術は成功と思われたが、検査結果はリンパへの転移だった。抗がん剤投与で完治できると医師から言われ投与を開始するがなかなかよくなり、そんな苦しみの日々が続いて来たある日、友人がある新聞記事をもつてきます。その新聞記事を見て主人公は医者に不信感をいだきます。 実話を元にしただけあつてかなりの迫力でした。皆さんもたまにはレンタルショップでインスピレーションで借りてみたはいいかがですか?!

「中国大陸&台湾」そして来期に向けて

社長 森 直樹



●中国大陸(広州)

5月中旬に香港経由で広州と深センへ。相変わらず急ピッチで発展している沿岸地域と、現地に近づきつつ、もの作りを進める日系企業に大陸の熱い雰囲気伝わってきました。

●台湾(台北)

5月31日から6月4日にかけて、台湾へ行ってきました。台湾の人は亜熱帯の気候のせいなのか、それとも日本人びいきなのか、とても朗らかで暖かいです。肩肘はらず、のんびりと過ごすことも出来る都会が台北でしょう。

●来期に向けて

今年も半分を過ぎ、モリマツは新たな期を迎えます。今期は創立50周年を迎え、また汐留への東京オフィス開設という大イベントが有りました。

戦後塩ビ雑貨を扱って始まった弊社は、50年を経た現在では、少しずつではありますが素材の種類も増え、加工、印刷から商品の企画も手がける様になりました。これは既存の素材をそのまま売っただけの卸業間の競争から、より付加価値を生む業態へと環境が変化してきたことが背景にあります。そしてその変化を受け入れ、自らを変化させていく風土が弊社にはあります。その風土とは、現在のモリマツを支えている皆さん一人一人によって作られたものです。

今後私たちが取り巻く環境は、より変化のスピードが速くなり、業界の壁を越えて競争・協力する事が当たり前になるでしょう。しかし変化に対応できるこの風土が有る限り、どのような変化の波も越えていける、また波に乗ることが出来ると思っております。そしてその風土を受け継ぐ人材が必要です。モリマツ自身も時代と共に変化し続ける企業でなくてはなりません。

私にはまだまだ知らないことがたくさんありますが、次に起こる波に乗るために必要なことは何か。皆さんの経験と知恵をお借りしつつ、答えを実践に移していきます。今後とも、よろしくお願ひします。

naoki@morimatsu.net

第3回新商品発表会

開催日:5月23日(水)

優勝

牧野／岩間チーム
「マルチ携帯電話ホルダー」

「最強のチーム」と言われて、かすかにプレッシャーを感じながらも、『森松の得意とする加工方法と素材を使った新商品』というテーマで商品考えた結果出来たのが【マルチ携帯電話ホルダー】です。

ところでどうして最強のチームなのかと言いますと、今回のチーム編成はベテラン社員と若手社員との組み合わせで昨年の夏に行われました。我チームは二人ともベテランの方ですが、最初からそうでは無く、当初組んだ相手が途中で退社してしまった為にバツイチとなった二人が結ばれて、そうなったのです。他のチームではベテランが若手にいろいろと教えながら、商品開発を進めている光景がみられましたが、そんな時間を全く使わずに商品開発を進める事が出来た事が、他のチームと比べて効率的で良い結果につながったのだと思っています。

さて、今回の商品を市場へ送り出さないと開発の意味がありません。御取引先様でこの商品に興味を持たれた方は是非、お声かけ下さい。

牧野光昌／岩間正美

商品説明

●4通りの使い方ができる携帯電話ホルダーです。

- ①普通にスタンド式の携帯電話ホルダーとして。
- ②ホルダーに入れたまま充電アダプターのプラグをコンセントに差せば、壁に張り付いたままの充電時ホルダーとなり、邪魔になりません。
- ③充電完了後は、背の部分にコードをくるくる巻き付けてコードホルダーとして使えます。
- ④車のエアコンの噴出し口に、背の部分のフックを取り付けることができますので、そのまま車中でも車内用携帯電話ホルダーとして使用可能。

アピールポイント

- PPシートをプレスで抜いただけなので、社内でも生産可能である。
- 名入れスペースがあること。そして価格的にも安価であり、販促用として最適です。
- ホルダーに入れたまま充電できて、長めのコードも背に巻き付けて調節できます。
- 今まで無かった機能を多数組み合わせたマルチなホルダーなので、商品としてインパクト有り。



①携帯電話ホルダー



②充電中



③コードホルダー



④車取り付け状況

「禁煙」

光田昭男(企画営業部)

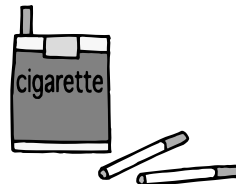


社内全面禁煙となる。喫煙場所は駐車場の片隅になってしまった。世間の流れでは当たり前のようになっています。社内でも禁煙に成功した方が2名います。意志が固いのでしょうか？

私も、10ヶ月前になるのですが、10ヶ月前禁煙したことがあり、禁煙の辛さは解かっているつもりです。喫煙は、百害あって一利なきものですが、喫煙にもマナーを守れと感ずることがある。車の運転中に良く出会うのだが、窓から手を出して車の中に煙が入らないようにしている運転手を見かけるが、確率100%で車外に吸殻を捨ててしまふ、もちろん火がついたまま。火事になったらどうするんだと怒れてきて、運転手の顔を見ると同世代に驚き、怒りが込められる。多分だが会社へ帰れば、火の元注意・社内喫煙と騒いでいるのでは？私が見る限りでは、高級車又は営業車での相乗りが多く、同乗者も注意をしないのはなぜでしょう。禁煙車での喫煙と考えられます。禁煙車ならタバコを吸うな：飛行機なら我慢するだろう！ 自分の家の前に行つて捨てると：ひとりごと。

私は、出来る限り禁煙のお客様の前では喫煙をしないように、車内にタバコを置いてお客様と商談するように心がけています。喫煙しても良いと言われても我慢することが、マナーと考えます。

喫煙にはマナーを：JTよりお願いします。



「父の日」

安井浩二(企画営業部)



父の日とは、父に日ごろの感謝の気持ちをあらわす6月の第三日曜日ですね。私も結婚して20年近く「父の日」には親父へ感謝の気持ちを込めて「プレゼント」しております。母の日の贈り物と違い、親父には定番と言われるくらい毎年ニットシャツを渡しておりました。昨年の「父の日」の出来事でした。さすがにシャツは飽きたらどうと思ひ、その年は、なにげなく、ごく一般的なベルトをプレゼントに選びました。「お、ありがとう」と。よほど、シャツは飽きていたのか？と思うくらい、えらい喜びようだった。

その後、なにやら思いついた様子で、親父は、部屋の奥から「そこそこ古びたベルトを取り出してきました。それは、私が初めてボーナスをもらったとき親父へプレゼントした物で当時、流行のブランド物のベルトでした。あ、まだ持っていたんだなと思ひ、あの頃イキがって、俺も人前だ！と見栄を張って買ったことを思い出しました。あれからも、25年ぐらいいつており、懐かしかった。

当時、よほど嬉しかったんだろうか？ 親父は、「よそ行き」の時ぐらいいしか使わず、つい数年前まで、大事に使ってくれていたことを教えてくれた。さすがにベルトの皮はボロボロになっていた。その古いベルトからバックルを外し、新しいベルトに、メ替えてニコニコしながら「これでまた使えるな」と。今どき、流行らないバックルなのに？と思つたが、でも、また使ってもらえることが嬉しかった。

私も親になり、子供達からプレゼントはどんな物でもうれしい。親父からすれば、あのベルトは思い出深い物だったのだから？ さきほどの親父の喜んだ意味が理解できたような気がした。何年経つても、あの頃からも何も変わっていない親のやさしさ(愛情)を、あらためて知らされた日でした。日ごろの感謝の気持ちを込めて……

「年金問題」

成瀬勝英(配送部)



気分を害するもの、それは最近のニュースかもしれない。この国はいつだってどうなってしまうのだろうかと思わずにいられない記事が多すぎると思いませんか？ 何やら老人めいた言い回しですが、その老人の年金問題にしても、加入を拒む国民が増加している事が問題になってきたかと思えば、実は社会保険庁でも5,000万件もの納入記録が不明となり、更に1,430万件の未入力が見つかった等と、その管理体制が問題になってい

ます。テレビ報道での担当責任者の回答は、パートタイムにパソコン入力を任せていた為に起きた事との説明。チエックはしないのですか？ との質問に、しどろもどろの曖昧な返答をしている様子に「何かい？問題はパート(部外者)の責任で、あなたには責任は無いとも言うのかい？」などと突っ込みたくなる。原本記録まで処分している為、支払い記録が無い者の受給をどうするか？との国会答弁では、加入者の自己申告で対応する案に對し、安部総理が「申告者全員に支払うとも言うのですか！等と反論？(信用回復を考る企業なら有りえる策だと思ふ)日本が何故経済大国と言われるか、それはそもそも企業努力であり、国民の勤勉さと実直さが齎した結果であると思ふ。他の国に分ける鉦物資源も無ければ、食品に至るまで輸入に頼るこの国は常に英知を絞り、努力する事でしか発展は無い。公務の本質は裏方であり(国民をサポート)その姿勢が国の為であるか、国民の為であるかの違いは大きいと思ふ。(一般企業に従事するものと国家公務員の考えや姿勢に差を感じる)どう思ひますか？ 自分が受給資格者になった時、安定した生活を送れる金額(食べていける)を国が用意してくれると思ひますか？ ……考へるだけでも、そら恐ろしくなる。